

覚えていますか？「かぐや姫」の物語 ～あらすじ～

むかしむかし、あるところに竹を取る翁がいた。翁は光る竹の中に小さな女の子を見つけ、媼とともに大切に育てた。女の子は見る見るうちに美しい娘に成長し、「かぐや姫」と名付けられた娘の噂は方々に広がった。



求婚者が続出するなか、特に熱心な五人の男が妻に迎えたいと申し出るが、姫は夫婦になる条件として無理難題を与えて退ける。

遂には帝までもがかぐや姫に近づくが、姫はそれも拒み、帝のせめてもの望みとして歌のやり取りを約束した。



それから三年が経とうとした頃、かぐや姫は月を見ては悲しむようになる。姫は、自分が月の都の使者であり、次の十五夜に月から迎えがくることを打ち明ける。

翁は、帝の軍勢にこれを阻止するよう懇願するが、月の使者の前になす術もなく、かぐや姫は翁と媼に別れを告げ、月へ帰っていくのだった。